二〇二六年度　ラ・サール高等学校入学試験　国語（時間　七十分）　解答用紙

《一》

問一　ウ

問二　各々の前提となる常識が違うのに、多くの言葉のやりとりを高速で行うことにより、激しく傷つけあうことが生じやすい危うい状態。

60字

問三　オ

問四　スマホが普及しSNSが登場したことで、公に向かって頻繁に文章を書くことが誰にとっても日常化したから。

50字

問五　せっかちにやりとりするための言葉とは違い、自分の思いをより適切に表すために、時間をかけてつむいだ自分なりの言葉であり、うまく用いることができれば日々を楽しませてくれ、どんな状況でも共にあって自分を守り支えてくれる頼もしい相棒のようなもの。

120字

問六

A 雄弁　B 極端　C 注ぎ　D 群がる　E 拙著

F 抗議　G 鍛え　H 活躍　I 幅　J 芝居

一小計

二小計

《二》

問一

A エ　B イ　C オ

問二　イ

問三　世間から奇異に見られ、聾学校ではろうを恥じる意識のせいで同級生と打ち解けられず、親族も正一が聾学校にいることを恥じて正一の両親を責めていることから、孤独を抱えるとともに自責の念に駆られていること。

100字

問四　正一は〈池〉たちにひどいことをして謝ってもいないのに、〈池〉たちはわざわざ正一の家まで訪れて遊びに誘ってくれたこと。

60字

問五　同級生の手話は自然な文で表現されているが、正一の手話は断片的に語句が並べられている。

問六　ア

問七　ぎこちない／が／正二／は／一生懸命に／手／を／動かし／た

問八

b 未然形　c 連用形

問九

d オ　e カ　f コ　g ア　h キ　i ウ

《三》

問一

a エ　b ア　c オ　d イ

問二

i ア　ii ア　iii カ　iv ウ

問三　元の妻に会いたい

問四　エ

三小計

問五　昨夜は元の妻と共寝したはずなのに、朝、隣には骨と皮だけの死体があるのを見て、「もしかしたら見間違いか」と思って見直したが、本当に死体である。

問六　元の妻の、自分を見捨てた男を恨むことなく死してなお再会を切望していた心情。

受験番号

得点